



教員特別研究（重点研究）成果報告書 | 配分研究費：913千円（令和3年度～令和4年度）

高齢者のフレイル予防に資するための基礎研究 一 個人差とその効果に着目してー

目的・概要

高齢者のフレイル予防に資するため、重要とされる運動・食事・社会参加などに関する基礎的なデータを収集し、さらに個々の高齢者の興味・嗜好などとの関連から、これまでフレイル予防には積極的ではなかった高齢者への新たなアプローチに繋がる知見を得ることを目的として調査研究を実施した。

期間

令和3年4月1日～令和5年3月31日

研究担当者

デザイン学部 デザイン学科 教授 迫 秀樹（研究代表者）
デザイン学部 デザイン学科 教授 高山 靖子

スケジュール

令和3年4月～7月	聖隷クリストファー大学と本学学生との共同プロジェクト実施
令和3年9月～10月	南部協働センターほか各所でのアンケート調査・分析
令和4年5月～7月	浜松市動物園でのヒアリングおよび方策検討
令和4年10月～5年3月	吉田町・南伊豆町でのアンケート調査および個別インタビューの実施

研究成果

1. 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部の学生と、本学デザイン学部の学生による共同デザインプロジェクトを実施した。高齢者のテーマとしてフレイル後の課題を取り上げたグループがあり、専門の異なる学生が協働で調査・検討することによって客観的なデザイン提案に繋がることがわかった。
2. 高齢者のフレイル予防にとって重要な要素となる運動習慣について、その実態および情報の入手源などについて調べるためのアンケート調査を実施した。結果として、高齢者の約7割が運動習慣を有しており、健康・運動に関する情報および趣味・興味に関する情報とで接するメディアを変えていることがわかった。
3. 吉田町シニアカレッジにおいて、学習意欲の高い高齢者に対して食事と運動に関する調査・実験を実施した。調理動作を補助するキッチンを用いることで、それまで料理をしてこなかった高齢者の行動量が増し、食事への関心も深まることが示唆された。また、学習意欲が高い高齢者は運動習慣を有しやすいことも示唆された。



今後の研究成果の還元方法

聖隷クリストファー大学との共同プロジェクトについては学内で展示・発表し、冊子としてまとめて公表した。さらに芸術工学会にてプロジェクトの成果と課題について口頭発表した。そしてプロジェクト内の提案の一部はブラッシュアップした上でSeirei International Research Conference 2022にて発表した。高齢者における運動習慣と情報習慣との関連についての調査分析結果は、本学の研究紀要22巻にて報告している。その他のデプスインタビューやアンケート調査によって得られた成果については、学会等で報告する予定である。